



ゆざわのまち・ひと・しごと

おらがしごと

令和5年度ふるさと秋田農林水産大賞

「農林水産大臣賞」W  
「農林水産大賞(産地部門)」受賞!



JAこまち花卉部会は、平成11年に発足し、現在、部会員数50人のうち、24人がトルコギキョウを生産している。令和4年には過去最高(単一JAとしては県内トップ)の出荷量と販売額を上げた。



## JAこまち花卉部会

農産物や森林資源を次の世代に受け継いでいくため、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている団体を表彰する「令和5年度ふるさと秋田農林水産大賞」において、JAこまち花卉部会(トルコギキョウ)が、「農林水産大臣賞」と「農林水産大賞(産地部門)」を受賞しました。

# 日常に花のある生活を



部会長 せつつかんじ 摂津 寛嗣さん

— 受賞の感想をお聞かせください  
自分たちの活動がこのよう形で評価されたことをうれしく思います。

部会発足以来、定期的なほ場巡視会や作業マニュアルの共有など、経験の浅い生産者のバックアップや、産地全体の品質の底上げを図り、栽培技術の研究に取り組んできました。トルコギキョウの栽培自体は昭和60年代に始まっており、これまで栽培に携わったかたがた全員の活動が認められたと感じています。

— 部会で栽培しているトルコギキョウの特徴は

色合い、大きさ、茎の硬さが市場から評価を得ています。また、長期間の出荷が可能になる栽培方法を確立し、産地として頼りにされています。目指

すは、消費者ニーズの高い、ポリユームがあつて長持ちする花です。

— 消費者とのつながりは

花の栽培は消費者と直接顔を合わせることがほとんどない仕事ですが、市場を通じて花屋と交流する機会を設けたり、取引市場で産地フェアを開催するなど、消費者のニーズにいち早く対応できるように生の情報を得ることを大切にしています。

— 今後の展望をお聞かせください

生産者の数や品質のレベルを落とさず、これからも産地全体で積極的にさまざまなことにチャレンジして、発展していきたいです。

生産者の立場としては、母の日や、お盆、お彼岸などの特別な日に限らず、日常生活のあらゆる場面で花を取り入れてもらえると嬉しいです。

— このことは、花の生産者にとっては共通の願いではないでしょうか。

